

連続
勉強会

eシフト・原子力市民委員会 原発・エネルギーをめぐる 「国民的議論」のあり方を考える



●連続勉強会趣旨

エネルギー政策の決定や原発の再稼働などをめぐり、市民参加・住民参加のあり方が課題となり続けています。2011年の東京電力福島第一原発事故を受けて、2012年夏には、日本で初めての試みといえる「エネルギー・環境の選択肢に関する国民的議論」が実施され、討論型世論調査や各地での意見聴取会などが実施されました。しかし、とりわけ政権交代後、エネルギー政策・原子力政策のみならず、多くの政策決定の場において、市民参加・住民参加の機会がますます限られてきています。

そうした状況を踏まえ、本連続勉強会では、エネルギー政策・原子力政策をめぐって、これまで市民参加・住民参加の機会を確保しようとしてきた国内外の試みについて、その経験と課題を学びます。

第2回

「エネルギー・環境政策における熟議のあり方とは — 『自分ごと化会議in松江』から学ぶ経験と課題」

○日時：2020年2月12日（水） 15:30～17:30

○場所：衆議院第二議員会館 多目的会議室

参加費無料
申込不要

○内容：講 演 福嶋浩彦さん（中央学院大学教授、
元消費者庁長官、元我孫子市長）
コメント 手塚智子さん（市民エネルギーとっとり 代表）

2018年11月から2019年2月まで4回にわたって開催された「自分ごと化会議in松江」は、全国で唯一県庁所在地に原発が立地する島根県松江市で、無作為抽出で選ばれた市民21人と島根大学の学生5人が、「原発」の問題を議論しました。

無作為抽出による住民協議会はこれまでも例がありましたが、「原発」をテーマにした無作為抽出の協議会が開催されることはありませんでした。原発に賛成する人、反対する人、それぞれからの問題提起を聞きながら、普通の市民が原発を「自分のこととして考えてみる」というのが狙いでした。賛成・反対の枠を超えて、地域住民が「原発」を議論することは可能なのか。

本学習会では、「自分ごと化会議in松江」の仕掛け人であり、無作為抽出による市民討議をはじめとし、さまざまな住民参加型民主主義の可能性を追求・実践する福嶋浩彦さんにお話を伺います。

また、ドイツの「エネルギー自治」を通じた持続可能な地域づくりの試みについての調査研究をし、「自分ごと化会議in松江」でも問題提起者を勤めた手塚智子さんからコメントをいただきます。

これらを通じ、多様な意見を持つ人々が対話する民主主義のあり方を問い直したいと思います。

参考：第1回学習会「2012年の国民的議論と討論型世論調査の経験と課題」（2019年10月3日開催）

講演：柳下正治さん（環境政策対話研究所、上智大学客員教授）

主催：eシフト、原子力市民委員会

連絡先：原子力市民委員会 事務局

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町4-15 新井ビル3階（高木仁三郎市民科学基金内）

Tel / Fax : 03-3358-7064 E-mail : email@ccnejapan.com